

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月13日

協議会名:石川中央都市圏地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北鉄金沢バス株式会社	系統名:津幡(新道) 運行区間:本津幡駅~八幡~野町駅	<ul style="list-style-type: none"> ・野町駅では終日、電車との接続が確保されている。一方、森本駅では朝夕は接続が図られているものの、日中時間帯は接続が十分に噛み合っていないため、乗車人員を考慮し、接続の必要性を見極めていく。 ・鉄道石川線との乗継デジタル乗車券(津幡線)は、周知・拡販に努めており、販売実績も堅調に推移している。 ・バスの乗り方教室については、金沢市および津幡町の小学校を中心に開催している。 ・補助金を活用して運行していることを乗客へ周知するため、車内放送を継続して実施している。 	A 計画どおり実行された。	県内路線バス利用者数の維持 (R5.10~R6.9)96,866人→ (R6.10~R7.9)81,268人 B ※減少理由 令和6年3月16日のダイヤ改正により、1日あたりの運行回数が減少したこと、また少子化・人口減少・車社会化などの要因によるもの。	引き続き社会情勢に注視し、需要に見合った適正なダイヤの編成に努める。
	系統名:内灘 運行区間:内灘駅~県庁前~金沢駅西口	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢駅発内灘町方面行きのダイヤについては、乗客が僅少であった内灘駅~宇野気駅区間を廃止したことにより収支率が大幅に改善し、今期は黒字系統へと転換した(内灘線)。 ・補助金を活用して運行していることを乗客へ周知するため、車内放送を継続して実施している。 	A 計画どおり実行された。	県内路線バス利用者数の維持 (R5.10~R6.9)77,661人→ (R6.10~R7.9)84,368人	引き続き社会情勢に注視し、需要に見合った適正なダイヤの編成に努める。
加越能バス株式会社	系統名:南砺金沢 運行区間:金沢駅西口~福光駅前~井波	南砺市観光協会と連携した企画切符「南砺金沢フリーパス」の販売、SNSを活用した沿線地区の観光施設・資源の紹介やJR金沢駅に於ける北陸新幹線との設定を引き続き継続する。	A 計画通り実施された。	路線バス利用者の維持 (R5.10~R6.9)59,845人→ (R6.10~R7.9)79,572人 対前年で133%となった。	南砺地区から金沢への通勤・通学の利便性を維持するとともに、金沢から南砺地区への観光利用での移動手段としての存在をこれまで以上にPRし、更なる利用者増を図っていく。また利用者に動向を注視し、より利用しやすいダイヤの設定を検討していく。
北鉄金沢バス株式会社 北鉄能登バス株式会社	系統名:能登方面特急バス(輪島特急) 運行区間:金沢駅西口~のと里山空港~輪島駅前	下記の取組みにより利用者の利便性確保を図った。 ・能登方面特急バス(輪島、珠洲、宇出津)の重複区間(金沢~のと里山空港)を整理・統合し、のと里山空港を拠点とした、ハブ&スポーク型の路線ネットワークに再編することにより、金沢~奥能登地域の便数を震災前と同程度以上に確保した持続可能性と利便性の高い特急バスネットワークに再構築した。 ・乗降データから、奥能登各地域から、沿線の金沢医科大学病院および石川県立中央病院へのアクセスを考慮したダイヤを設定し、利便性向上を図った。 ・クレジットカードタッチ決済を導入した。 ・補助金を活用して運行していることを車内放送でご理解いただくことを通しての利用促進啓発を行う。	B 補助金を活用し運行している旨の車内放送は計画どおり実施されなかった。理由:単独で車内放送を更新すると費用がかさむため、次回のコマmercial更新時期及びダイヤ改正時期に合わせ取り込みたい。その他の事業は適切に実施された。	路線集約により金沢~奥能登間の往来回数を維持拡大した。また沿線の病院へのアクセスを考慮したダイヤを設定した。 震災後:輪島市4往復→再編後:6往復 ダイヤ例:金沢駅行き→すずなり館前発6時45分。能登町役場前発6時30分。輪島特急線や六水珠洲C線に使用する特急車両11台にタッチ決済を導入した。 【収支率】 輪島特急線:58.44% 【1日あたりの利用者数】 輪島特急線:139人	奥能登地域の人口流出などの社会情勢を注視し、適正なダイヤの編成及び効率的な運行形態について各関係機関と沿線自治体と協議しながら利用者の利便性確保を図っていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月13日

協議会名:	石川中央都市圏地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>石川中央都市圏における地域間幹線系統は、都市圏内外の拠点を連絡するとともに、地域住民の日常生活を支える重要な交通ネットワークである。</p> <p>一方、乗合バス事業者は、人件費等のコスト削減を行うなど経営改善に努めているものの、人口減少・超高齢化等による利用者の減少は続いており、厳しい経営状況である。このため、不採算路線の廃止や減便が進んでおり、地域住民にとって必要な生活バス路線をいかに確保・維持していくかが重要な課題である。</p> <p>本計画の対象路線は、石川中央都市圏の住民の通学、通勤、通院、買い物等に利用される広域的な生活交通路線であり、当該路線の維持・確保を図ることで、超高齢・人口減少社会に対応した広域的な公共交通網の構築を推進する。</p>